

第9回定例校長会レジュメ

1 日 時 令和8年1月14日（水）午前9時30分から

2 場 所 島本町役場 4階 議会第3・4会議室

3 次 第

(1) 開会

(2) 教育長あいさつ

(3) 案件

① 教推 今後のみづまるキッズプランに関する取組について

② 教推 第3回学校訪問について

③ 教推 令和8年度支援学級設置及び通級による指導について

④ 教推 令和7年度 大阪府中学生チャレンジテスト（3年生）結果概要について

⑤ その他

(4) 閉会

次回の日程

2月4日（水）午前9時30分から

島本町役場 4階 議会第3・4会議室

令和8年1月14日

令和7年度の実施状況

1 「みづまるキッズカリキュラムと総合学習を繋ぐ」

3つの力をつけるための単元計画の作成について、各校の校内研修として下記日程にて実施

第一小学校 7月22日
第二小学校 7月25日
第三小学校 7月24日
第四小学校 7月25日
第一中学校 7月24日
第二中学校 7月22日

2 第21回 島本町夏季教育セミナー全体会の実施について

日々の保育・教育活動とみづまるキッズ保育・教育ビジョンの実現を結び付けて考えることを目的として、下記日程にて島本町夏季教育セミナー全体会を実施

【全体会 講演について】

7月28日(月) 14:00～16:30 (会場: 島本町ふれあいセンター ケリアホール)

講演: 「みづまるキッズプランを進めていくためのカリキュラムマネジメント」

講師: 佐久間 敦史 氏 (大阪教育大学 准教授)

3 各校にて授業実践(2学期～3学期)→令和7年度 活動報告書作成(3学期)

4 今後の取組会議の実施予定

1月29日(木) 16:00～17:00 各校で作成した単元計画(総合学習)の共有
2月26日(木) 16:00～17:00 年間総括 今年度の成果と課題について

令和8年度の方針について

事 務 連 絡
令和 8 年 1 月 5 日

各 学 校 長 様

島本町教育委員会事務局
教育こども部教育推進課長

令和 7 年度第 3 回島本町立小中学校訪問について（通知）

標記について、下記のとおり実施いたします。学校訪問の目的に沿って実施できるよう配慮願います。

つきましては、学校訪問の日程調整を行いますので、別紙に都合の悪い日をご記入いただき、令和 8 年 1 月 16 日（金）までに教育推進課まで提出願います。

なお、当日は、公用車 1 台分の駐車スペースの確保をよろしく願います。

記

- 1 目 的 学校が島本町教育重点目標等を踏まえた学校の特色づくり、住民に信頼される学校づくりを推進することを目的として実施する。
- 2 訪問者 教育推進課長、教育推進課参事
- 3 内 容
 - ・今年度の課題及び次年度の方針（案）等について
 - ・授業参観
- 4 資 料 学校経営方針を踏まえ、学習状況調査、学校教育自己診断も参考にし、今年度の課題や次年度の方針（案）をまとめたものを準備願います。
- 5 訪問期間 令和 8 年 1 月 26 日（月）～2 月 6 日（金）
※1 校 1 時間程度。日時は、決まり次第各校に通知予定。

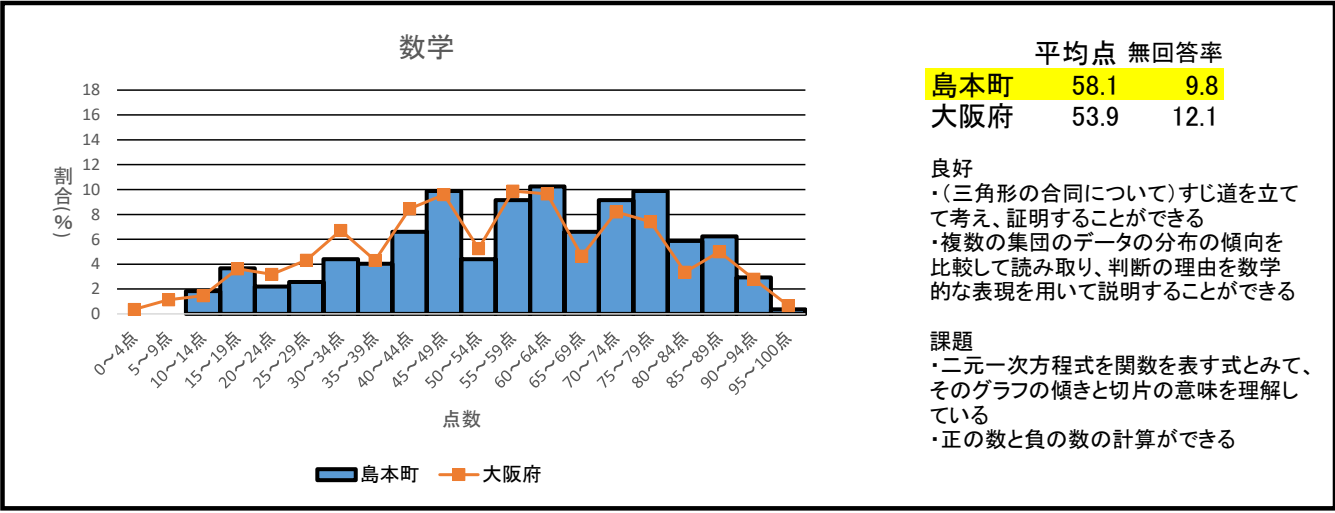
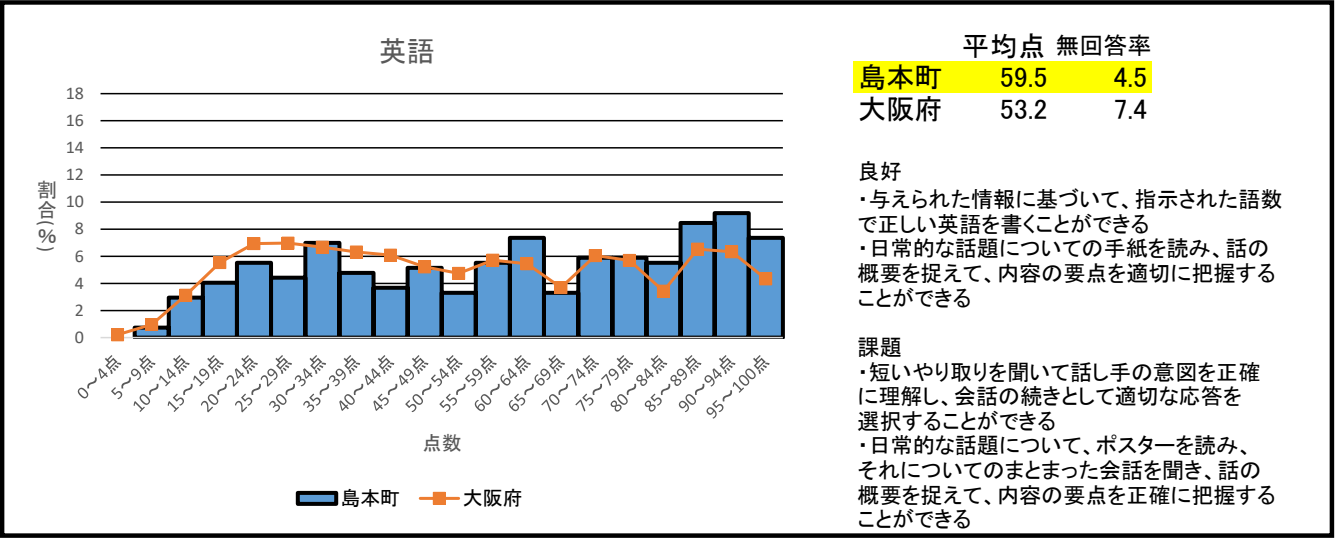
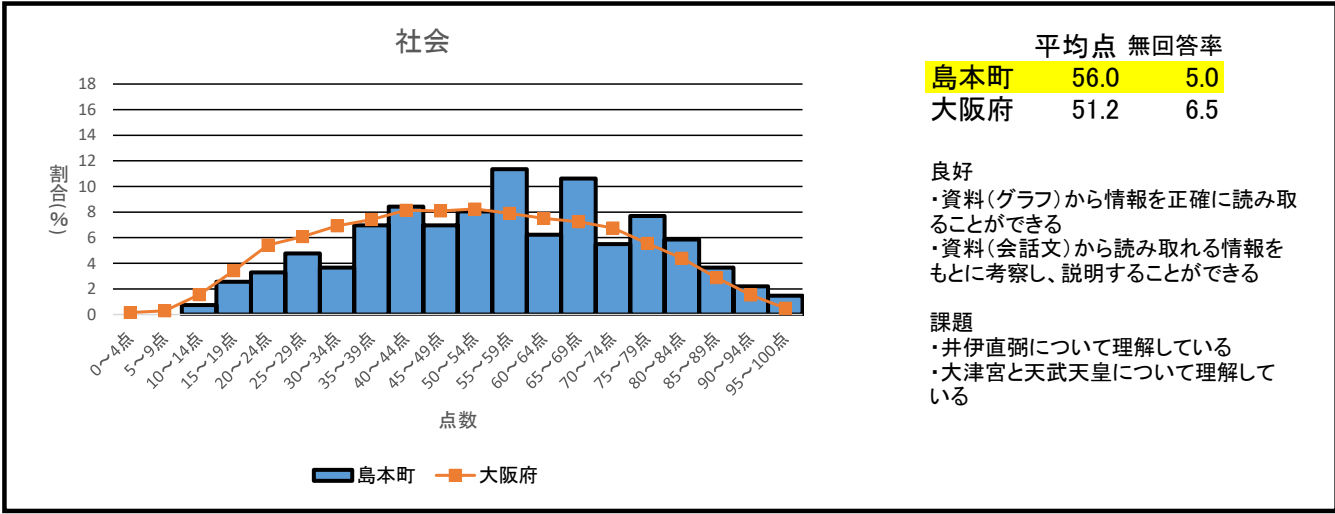
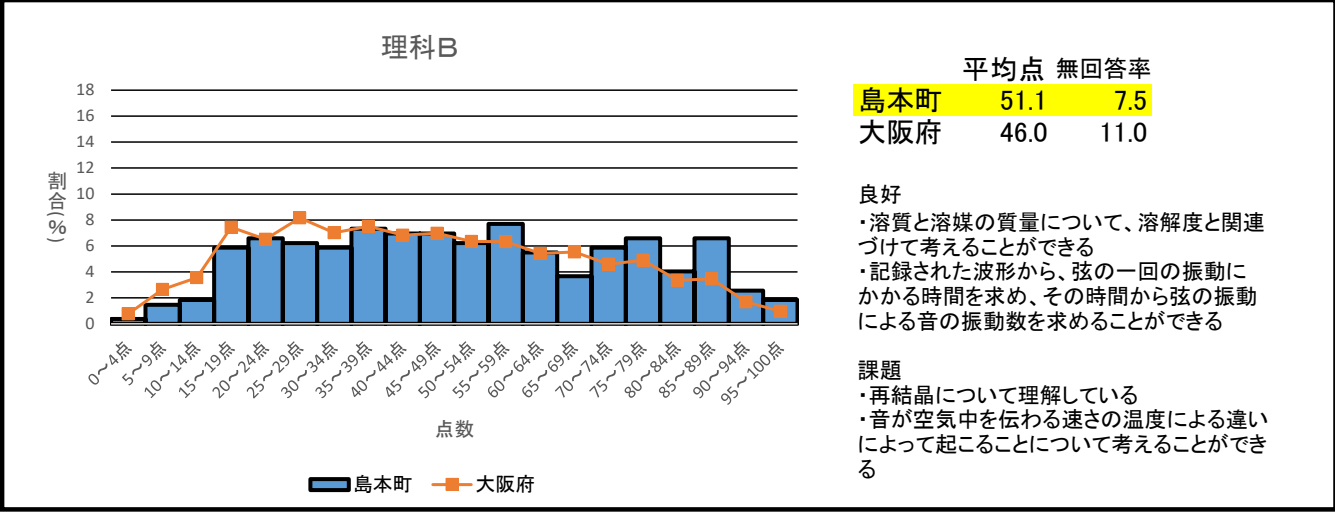
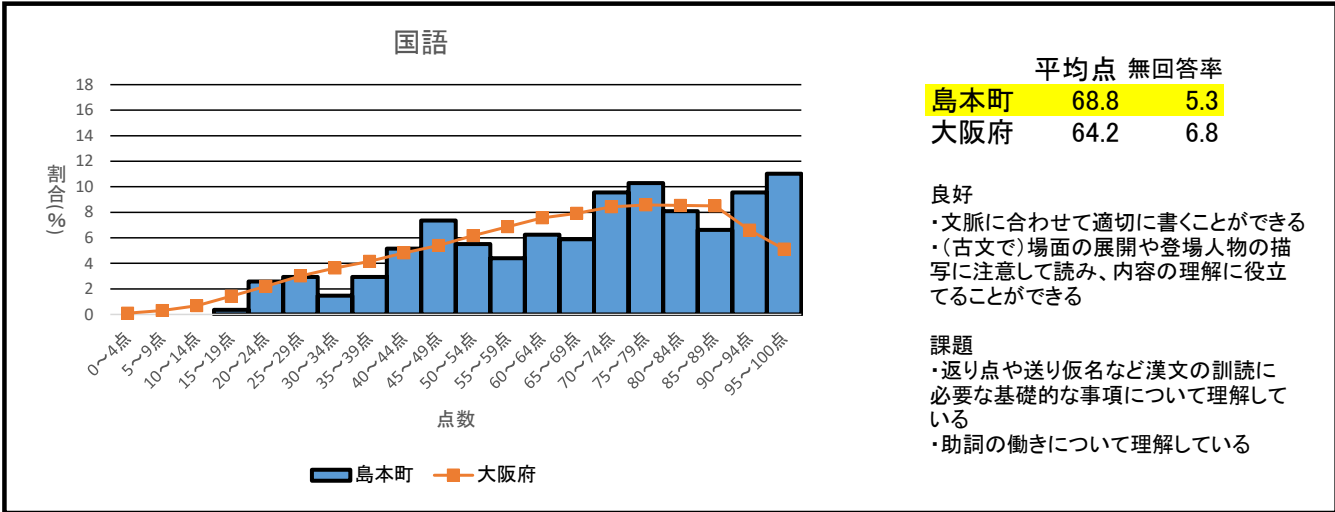
令和7年度大阪府中学生チャレンジテスト 中学3年生 結果概要

教育推進課

実施日時: 令和7年9月2日(火)
対象・内容: 第3学年(国語・社会・数学・理科・英語、各教科アンケート)
※理科はB問題を選択

実施校数: 2校(府内468校)
実施生徒数: 273人(府内57, 690人)

1. 度数分布及び教科別結果概要(平均点)



<結果概要>

国語: 問題形式では、すべての形式で大阪府平均を上回る結果となったが、知識及び技能の観点における、「言語の特徴や使い方に關する事項」で大阪府平均との開きが小さくなった。

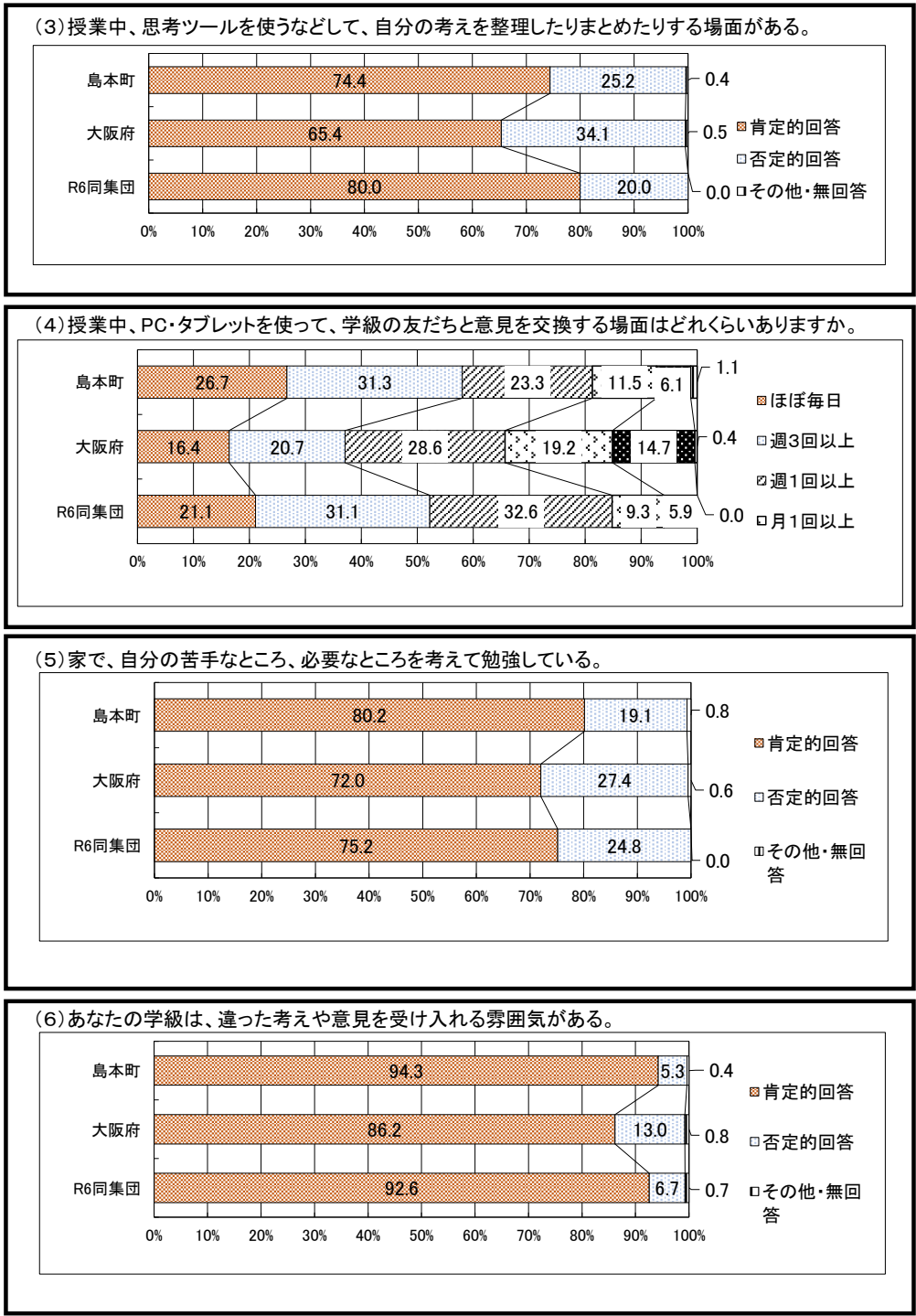
社会: 問題形式では、すべての形式で大阪府平均を上回る結果となったが、地理的分野と比較し、歴史的分野において大阪府平均との開きが小さかった。

数学: 問題形式では、すべての形式で大阪府平均を上回る結果となったが、数と式の領域で、特に大阪府平均との開きが小さくなった。

理科(本町はB問題): 問題形式では、すべての形式で大阪府平均を上回る結果となったが、「生命」の領域で、大阪府平均との開きが小さくなった。

英語: 問題形式では、すべての形式で大阪府平均を上回る結果となったが、聞くことの領域で、大阪府平均との開きが小さくなった。

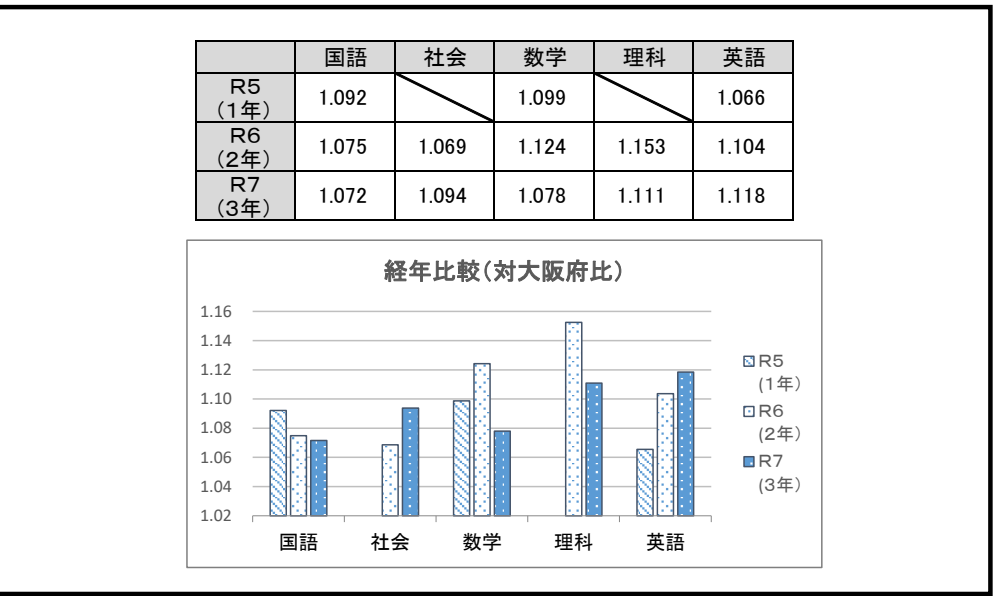
2. アンケート(抜粋)



＜アンケート結果について＞
○(4)は昨年度と比較して「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した生徒の割合が5.8ポイント向上した。GIGAスクール連絡会や校長会等を通じ、単なる端末の使用のみならず、意見交流等を効果的に行うツールとしての活用を指導助言した結果であると分析できる。関連して、(5)についても、デジタルドリル等を活用し、教員の指示のみならず、生徒自身が課題意識を持って自学自習に取り組んでいることが、回答結果から伺うことができる。

●一方で、(3)の肯定的回答割合が、昨年度と比較すると5.6ポイント減少した。学習指導要領の求める「主体的、対話的で深い学び」の実現に向け、生徒が自らの思考を整理し、適切な方法でアウトプットすることは必須である。今回の教科結果からも、「思考力・判断力・表現力」の獲得度合に二極化が見られることが伺える。思考ツール等を活用し、思考の道筋を明らかにしながら自らの意見を整理する取組みについて、今後も指導していく必要がある。

3. 同一集団における教科別の3か年の推移(1年次は国・数・英のみ)



4. 教科アンケート 同一集団における類似質問への肯定的回答状況 質問事項 経年比較

